

## 施設整備の方針

Policy of facilities maintenance

### 1) 施設の新営及び再生

近年、本キャンパスでは、生命資源研究・支援センターアイソトープ総合施設、遺伝子実験施設の新営（平成9年完成）以降、研究・診療・病棟等の施設について約85,000㎡の施設整備を計画的に行ってきた。結果、老朽化及び狭隘化は部分的に解消されつつある。本学の施設を経年25年以上の建物比率でみた場合、大学全体の54%に対し、本荘キャンパスにおいては43%と比較的低い数値となっている。しかし改修率については、11%の達成率に留まっており、更なる改修整備を行っていく必要がある。また、図書館の整備率については24%と非常に低い整備率に留まっており、深刻な狭隘化状況にあり、図書講義棟の新営整備を実施する。

今後、狭隘解消に向けた新営増築による施設整備や、既存施設の改修整備による有効利用等、新営整備と改修整備によるバランスの取れた施設整備を実施していく。



■中地区の旧基礎研究棟 取壊予定



■北地区の基礎医学研究棟 H10年竣工

### 2) 耐震化の促進

地震発生時に患者、学生、教職員等の安全を確保するために、施設の耐震性能の向上を積極的に図っていくことは重要な課題である。

本荘キャンパスにおいては、現行の耐震設計基準以前に建てられた建物が施設全体の43%に達しており、学生等の日常的な利用に供する建物を含め、必要に応じて耐震診断を実施したところである。耐震性能が低い建物については老朽改修と併せて耐震改修を計画的に行い、老朽再生を図る。また、病院施設に於いては、先の阪神・淡路大震災で多くの病院建物が機能を消失したことの教訓から、西病棟及び中央診療棟については地震時の耐震安全性を高めるのみでなく、揺れを抑える、または減少させるため免震構造を採用する等、安心・安全な医療環境を提供しているところであり、引き続き、東病棟についても同様の構造で整備を進める。



■免震構造を採用している西病棟と中央診療棟



■アイソレーター据付工事の様子



■アイソレーター 鋼棒ダンパー

■免震構造の施工と免震装置

### 3) エコキャンパスの推進

人と環境にやさしいキャンパスの創造を目指して、省エネ、資源リサイクル、環境美化等の観点からエコキャンパスの実現へ向けて取り組んでいく。緑地保全を兼ねたアメニティスペースの整備や、パッシブエネルギーの積極的活用を視野に入れた施設整備の検討、グリーン購入法の推進及び資源のリサイクルの向上等に努め、環境負荷の少ないキャンパス計画を目指す。



■中央診療棟の屋上緑化

### 4) アメニティスペースの充実

学内・病院内の豊かなコミュニケーションを促進するために、緑あふれる憩い語らいの広場、ラウンジ・アトリウム等のアメニティスペースを快適なキャンパス空間として整備する。キャンパス北側に熊本城と白川を望むロケーションを活かした空間整備や、敷地内の隣棟間と緑を活かした広場の整備など、本荘キャンパスらしいアメニティスペースの整備を図る。また、北地区のアカデミックコアやホスピタルコア、中地区のセンターモールなど各地区を特徴づける空間は外部空間と各建物とを一体的に整備し、森の都にふさわしい緑豊かな空間づくりを目指す。



■北地区救急棟東側の緑の広場

### 5) 適切な施設の維持管理の実施

大学施設を永続的に運営していくためには、施設の老朽化をできる限り防いでいく必要がある。そのためには、内外装や附帯設備の老朽劣化状況などの基本的性能や、教育・研究機能、使用状況、利用効率等の現況を調査、把握し、施設がもつ潜在的なリスクに対して予防的な措置を効果的に実施する必要がある。



水廻りの老朽化

建具の劣化

金属手摺の腐食

コンクリートの破損

### 6) ユニバーサルデザインの促進

年齢や性別、能力の如何にかかわらず、全ての人が利用できるようにモノや空間をデザインするというユニバーサルデザインの理念に基づき、本荘キャンパスの施設整備を計画する。具体的には、スロープによる段差の解消や、スムーズに通過できる広い出入口、多目的トイレの整備や、分かり易いサイン計画などの方策を検討、実践していく。特に、附属病院施設が存在する北地区では患者としての一般来訪者が多数あり、「ハートビル法」「やさしいまちづくり条例」等の基準を満足することはもちろんのこと、機能性と審美性を備えた、さりげなく、美しく、できる限り安全で快適に多くの人のアクセスを可能にするユニバーサルデザインを施設整備の中に取り入れていく。



分かり易いサイン

緩勾配のスロープ

暖かみのある手摺

視認性の良い点字ブロック

## CONTENTS

1. 施設整備の基本方針
  - 1.1 熊本大学の理念・目的・目標
  - 1.2 熊本大学組織図
  - 1.3 大学施設整備の目的・目標
  - 1.4 キャンパス計画のコンセプト
2. キャンパス概要
  - 2.1 キャンパス位置図
  - 2.2 現状施設
  - 2.3 経年別建物配置と現状施設データ
3. キャンパス計画・施設整備の将来構想
  - 3.1 施設整備の将来構想
  - 3.2 キャンパス計画各論
  - 3.3 意匠計画の考え方
  - 3.4 アメニティ空間の整備計画

## 4. 将来構想に向けた具体的な整備方針と整備計画

### 4.1 施設整備の方針

### 4.2 施設整備計画

## 施設整備の方針

Policy of facilities maintenance

### 7) 保存建物の有効利用

#### 山崎記念館

本荘キャンパスにある山崎記念館は、初代熊本医科大学学長山崎正董博士の還暦と30年の肥後医育に尽くされた功績を記念した寄附建物で、建設当初は山崎記念図書館として建設された。その後、臨床講義室や医学部附属衛生検査技師学校等として利用され、昭和56年に改修を行い、名称を山崎記念館と改めると共に、宿泊・研修施設として利用されてきた。平成10年には登録有形文化財に指定されている。民生救済を目的として出発した250年に及ぶ熊本県の医学教育の長い歴史と伝統をもった肥後医育の象徴として、また近代建築物の文化遺産として、保存することが切望され、平成17年「熊本大学山崎記念館曳家事業」にて本荘キャンパス北地区の一角に移設保存がなされた。今後、肥後医育の精神を次世代に引き継ぐシンボルとして存し、その社会的責任を果たすべく、会議室や一般市民も利用可能な展示室等を備えた研修施設として、再整備を行うと共に、周辺の修景緑地の再現も進める。

#### ■概要

場所 北地区 臨床研究棟西側

建築年 昭和6年

構造・階 鉄筋コンクリート造 2階

建築面積 432㎡

延床面積 864㎡

設計者 武田 五一

改修歴 昭和56年内部改修（宿泊・研修施設）

その他 平成10年5月  
国の登録有形文化財に指定

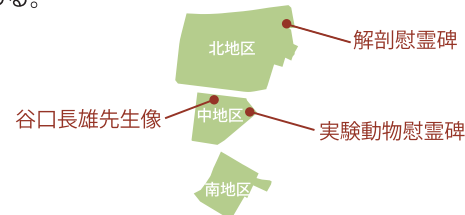


#### ■曳家工事の各工程



#### 保存碑

本荘キャンパス内には、解剖慰霊碑、谷口長雄先生像、実験動物慰霊碑があり、現在も慰霊祭などが行われている。これら記念碑は将来計画においても、緑地ゾーンへの取り込みなど周辺環境と調和した保存計画を図り、本荘キャンパスの将来へ引き継がれるモニュメントとして保存管理に努める。



#### CONTENTS

1. 施設整備の基本方針
  - 1.1 熊本大学の理念・目的・目標
  - 1.2 熊本大学組織図
  - 1.3 大学施設整備の目的・目標
  - 1.4 キャンパス計画のコンセプト
2. キャンパス概要
  - 2.1 キャンパス位置図
  - 2.2 現状施設
  - 2.3 経年別建物配置と現状施設データ
3. キャンパス計画・施設整備の将来構想
  - 3.1 施設整備の将来構想
  - 3.2 キャンパス計画各論
  - 3.3 意匠計画の考え方
  - 3.4 アメニティ空間の整備計画

#### 4. 将来構想に向けた具体的な整備方針と整備計画

##### 4.1 施設整備の方針

##### 4.2 施設整備計画